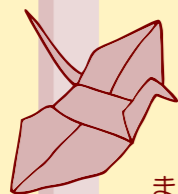


「環境・水」

6月23日、水俣市長崎に産業廃棄物最終処分場の建設を計画していた事業者が、事業の中止を決定しました。このニュースが流れた後は、「本当だろうか?」という声、「良かったですね」との声に変わり、広がっていきました。これまでねばり強く取り組んでこられた皆さんに心から敬意を表します。

水俣市のホームページを見ると、『水俣は公害を経験した非常に強い個性をもった町です。この個性はまちづくりにおいて重要な源です。まちづくりのすべてに環境をキーワードとして取り組み、世界に誇れる住民協働による環境モデル都市を目指しています。』の一文があります。この個性の強い町で環境と健康を守る砦の一つとしてあり続けたいと思います。



原水禁世界大会に参加して

先日、初めて原水禁世界大会(長崎)に参加してきました。その大会の中で、「核兵器がこの世界に存在する限り、私たちは潜在的にヒバクシャである」という言葉が印象に残っています。その言葉を聞いて、核兵器廃絶の問題、世界平和の実現の問題は、戦争で被害を受けた人々だけの問題ではなく、現在を生き、未来を紡いでいこうとする私たちみんなの問題であるということを改めて感じることができました。私たちみんなの力で、核兵器のない平和な世界を創っていきましょう。



ひまわり薬局/本高勝久

私はさくら薬局の代表として、6000羽の折鶴と共に本大会に参加しました。「大量の核兵器を持っている国がある。それらの国が核を廃絶する努力をしないのに、何故他の国が核を持つのを禁止できるだろうか。」といった話が印象的でした。2日間という短い期間でしたが、多くの仲間と出会い、多くのことを知ることができたと思います。少しずつでもこういった運動をしていくことが大事だと感じました。「ノーモア長崎&ノーモア広島」。



さくら薬局/加末航



■発行所/さくら薬局
〒867-0045 水俣市桜井町2-2-19
TEL0966(63)7100 FAX0966(63)3960
通話料無料フリーダイヤル 0120-63-9383
■発行責任者/甲斐 康幸

さくら薬局だより

秋号

2008.No.40



もりもりもりあがる雲へ歩む

昨年、連れ合いが北海道釧路から水俣病の講演に呼ばれました。これ幸いとノコノコついていったら、最大の誤算はこの人は飛行機に乗れないこと。陸路北海道まで寝台列車と新幹線で鉄道の旅を十分すぎるほど楽しみました。

薬局で陸路北海道へという話をしたら、「事務長、車でいかれるんですか?」の質問。『バカなこと言うんじゃないよ...』と、内心思ったのですが、そのバカをやったのけた人たちがいます。北海道で開かれた洞爺湖サミットに向けて、水俣病キャラバンの宣伝カーが水俣から札幌まで駆け抜けました。救済を求めつづける患者さんたちの命がけの行動でした。

近畿で水俣病裁判が起こされようとしています。水俣現地から職員が手分けして患者さんを訪ね歩きます。たった一本の九州なまりの電話の声だけを頼りに待つ人のもとへ。歩く、歩く。駅の階段を、田んぼのあぜ道を。電車やバス、モノレールを乗り継いで、見知らぬ土地を歩き回りました。それだけに、ドアチャイムが鳴ったときの患者さんたちの驚きようは、ドキュメンタリー映画の一場面のようなものでした。

日ごろ、薬剤師も薬局で処方せんを待つだけでなく、訪問服薬指導で地域を駆け回っています。待つ人のもとへ、きょうも歩く。

(水俣さくら薬局/事務長・山近 茂)